

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立以来かかげる「六綱領」（自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発）を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～

生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることのできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

②厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～

様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、“生徒の応援者”としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～

地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 授業アンケートや学校教育自己診断の結果を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少人数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等をとおして「授業改善」を図る。

※学校教育自己診断の授業理解度を3年後には65%とする。

2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点を踏まえ実践する。また「総合的な学習の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ「総合的な学習の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育の指導計画を確立させる。課題を抱える生徒の情報について学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。

※進路未定率を限りなく0%に近づける。(平成27年度0.9%)

※学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には65%とする。

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 相談室の常駐体制と3Cルームの活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーナー・ネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

※転退学者及び留年生の減少

3 生徒と教職員が安全で安心して過ごせる、魅力ある学校づくり

(1) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。また、地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。さらに、地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩む学校をめざす。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 中学校訪問や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。

ウ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には70%にする。

(2) 情報化・効率化を図るためにICT等を活用するとともに、HPのさらなる充実を図る。

ア 校務処理システムを活用することにより、教職員の事務業務を軽減し、生徒と接する時間の確保に繋げる。

イ HPをさらに充実させ、広報に努める。

(3) 「地震などの自然災害にも対処できる防災計画の策定」、「機能的な危機管理体制の確立」により、安全で安心な学校づくりに努める。

ア 教職員、生徒による日常的な安全点検を実施し、安全に過ごせる環境整備に努める。

イ 命の大切さを認識させ、生徒が自らの命を守るための「主体的に行動する態度」を育成する。

※学校教育自己診断における「命の大切さ」に関する肯定度を3年後には65%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターの導入、指導方法の工夫や考査前の講習などを通して、勉強に対して前向きに取り組む姿勢ができてきた結果が見られた。 ・国際理解教育や人権教育などに関連した質問項目でポイントアップが見られた。総合・LHRの内容を検討し、人権教育においてもどのような内容を扱うかということや学年、時期なども含めて検討し協議を重ねた結果からだと考える。 ・学校行事において生徒が主体的に行っていると感じている生徒が増えている。学校をより活性化させるために生徒会活動や学校行事を中心として生徒の自主性を育てていきたい。 <p>*保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の課題であった情報発信について、ホームページやまちこみメールの活用を積極的に行ったことから、それに関連した質問項目についてポイントアップが見られた。だが、更新や配信内容や回数など、まだ課題はあるので今後も改善を続ける必要がある。 <p>*教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターが導入され、使用率がアンケートの肯定的回答から80%を超えている。授業改善においての使用が全体的に広まっているように感じる。 ・校長の教育理念や学校運営の方針が記載されている学校経営計画と教職員の意見というところでの意思疎通が今以上に必要であるという回答が多かった。学年会議、分掌会議での意見の吸い上げや学校運営に関する提言シートの活用などを積極的に行うことが改善手段の1つであると考えている。 	<p>○ 第1回(6月6日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器導入をバックアップしたい。先生たちが引っぱり張ってほしい。 ・グループ学習はよい。遅刻減少はよい継続してほしい。 ・グループ学習を続けて、生徒に授業の趣旨を理解し、同じ方向を向くようにする。 ・自分の将来を見通すカリキュラムが必要だ。 <p>○ 第2回(11月30日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生には慣れがあるのではないかと引き締める方策を考えてほしい。 ・ICT機器を一気に導入したのは良かった。 ・生徒もICT機器使用に参加できる方法を考えてほしい。機器や教材の準備が大変なので、先生方でそれらの情報を共有できれば、合理的ではないか。 ・ICT機器を使えば、授業の効率は上がるが、ついていけない生徒もいるので、授業のスピードに気をつける必要がある。 <p>○ 第3回(2月6日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進んでやれる土台をつくる教師の役割は大きい。 ・ICT機器が充実された年。今後も使用に努めてほしい。 ・生徒が教師と話をできる場所が整備されているのはよい。 ・他校種との交流は参考になる。しっかり取り組んでいる。 ・自然災害への対応や、防災に関連して生命を大切にする教育を進めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み ア 生徒実態に応じた「わかる授業」の展開 イ 公開授業見学、研究授業、授業アンケートを活用した授業改善の推進 ウ 他校種の授業見学等による教員力の向上	ア・1年生英語、数学での習熟度別少人数展開授業を継続し、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にする心を育む。 ・3年生国語で少人数展開授業を実施し、進路実現に向けて自己表現能力の充実を図る。 イ・公開授業期間を教員相互の授業見学期間と位置づけるとともに、全教科の研究授業を実施し、助言及び分析を実施。さらに授業アンケート結果の分析結果を基に、教科内で改善案の策定を図る。 ・ICT機器を積極的に活用し、生徒が自ら考えることのできる授業を展開する。 ウ・経験年数の少ない教員を中心に中学校、支援学校の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。 ・年2回の公開授業を学校協議会委員、地域の中学校教員に公開し、意見聴取を行う。	ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」78%(平成27年度77.3%)少人数によるきめ細やかな指導55%(平成27年度53%) イ・公開授業期間を2回、研究授業を各教科1回ずつ実施する。 ・生徒向け学校教育自己診断「教え方の工夫」66%(平成27年度65.3%)「授業はわかりやすい」63%(平成27年度62%) ウ・他校種の授業見学2回実施 ・学校協議会委員の肯定的意見80%以上	ア・「勉強するのは大切」学校教育自己診断結果81%(1年82% 2年85% 3年73%で3学年とも昨年度よりアップ) (◎) ・少人数展開授業に関する肯定的な意見は62%(1年82% 2年44% 3年61%)と昨年度よりアップしたが、少人数展開授業を2年生で実施していない結果が顕著に表れている。(◎) 教科別アンケート結果では、1年数学(81%)、1年英語(88%)、3年国語(93%)、3年英語(84%)の肯定度であった。(◎) イ・公開授業期間を2回、研究授業を各教科1回ずつ実施 (○) ・ICT機器を使った授業研修を2回(8月、9月)実施し、教員の8割がプロジェクターや書画カメラ等を使用している。生徒向け学校教育自己診断「教え方の工夫」肯定度68%(1、2年生は70%) (◎)「授業はわかりやすい」の肯定度は63%(○)次年度も校内研修、研究授業等を実施し、授業改善に努めることが必要である。 ウ・他校種授業見学(中学校・支援学校)を初任者および希望者で実施。2回合計17名参加(○)学校協議会委員の肯定的意見100%(◎)
2 生徒支援体制の整備と充実化	(1) キャリア教育、人権教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現 イ 人権教育の推進 (2) 「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践 ウ 個に応じた支援体制の充実	(1) ア・3年間を見通した進路指導計画を策定する。特に1年生から進路に対する認識を高め、目的意識を持った高校生活を送ることができるよう、進路講習、説明会等を充実させる。 イ・3年間見通した人権教育計画を策定し、人権意識の向上を図る。 (2) ウ・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。	(1) ア・学校斡旋就職1次内定率80%(平成27年度78%)、希望する大学・短大・専門学校等への進路実現率95%を維持 イ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度62%(平成27年度61.6%) (2) ウ・学校教育自己診断における生徒の肯定度50%(平成27年度48.6%)、保護者の肯定度63%(平成27年度62.2%)	(1) ア・1年生職業別体験学習、2年生進路説明会(見学会と校内ガイダンス)、3年生進路ガイダンス(13回)、就職履歴書・面接指導(15回)を実施。3年生は学校斡旋就職1次内定率85%(◎)希望する大学・短大・専門学校等への進路実現率97%(○)と好結果を出している。学校教育自己診断における進路に関する生徒の満足度は64%で昨年度と変わらないが、保護者の満足度は75%で昨年度より5ポイントアップした。(○) イ・「3年間の人権教育計画」に基づき、1年生「在日外国人問題」2年生「障がい者問題」3年生「労働問題」のテーマで講演会を実施し、人権教育の推進に努めた。次年度も計画に則りその年度の生徒に必要なテーマ選定を図りたい。「人権」に関する肯定度68%(○) (2) ウ・18回の支援会議(うち2回にSC参加)を通じて生徒の実態把握、情報共有を図り、生徒一人一人の支援を図った。生徒の肯定度51% 保護者の肯定度66%(○)

府立美原高等学校

<p>3 安全安心で、魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成 ア 遅刻指導の取り組み イ 交通安全指導・自転車事故防止の取り組み (2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と地域広報活動の取り組み ウ 学校行事等への参加意欲向上 エ 部活動の活性化に向けた取り組みの推進 オ HP、広報活動のさらなる充実化及び地域行事への参画</p>	<p>(1) ア・全教員輪番制による朝の立番、遅刻当番、校内巡回、昼の巡回を実施する。 ・遅刻による特別指導を継続実施する。 イ・全校生対象の交通安全講習会を3回実施し、交通事故防止に努め、「命の大切さ」を学ばせる。 (2) ウ・体育大会、文化祭等の学校行事に生徒会部を中心に、全生徒が主体的に参加できるような行事を企画する。 ・生徒会、PTAを中心に生徒と協働できる活動に少なくとも3回取り組む。 エ・生徒会による部活動発表会(4月新入生向け、文化祭等)を実施するとともに、あらゆる機会を通じて部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動の大会(美高杯)や体験会を生徒が企画、運営することにより、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。 オ・HP等で、本校の取り組み等を発信し、広報活動の充実を図る。また、保護者向けメール配信を充実させ、適切な情報提供を行う。 ・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 ・体育専門コースで、特色ある授業を展開することにより、体育専門コースをめざす生徒を増やし、達成感を醸成することにつなげる。</p>	<p>(1)ア・遅刻回数一人平均3回以内 イ・生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定的意見51%以上(平成27年50.8%)自転車の交通事故件数のさらなる減少をめざす(平成27年度22件) (2)ウ・生徒の学校行事に対する満足度70%(平成27年度67.3%) エ・新入生の部活動加入率50%以上を維持(平成27年度52.4%) ・美高杯参加中学校1種目あたり平均8校 オ・保護者の学校教育自己診断における肯定的意見30%以上(平成27年17.9%) ・校外での学校説明会等の参加者950名以上(平成27年度913名)、近隣の中学校訪問3回以上 ・体育専門コース選択生の満足度95%以上</p> <p>(1)ア・1月末現在の遅刻総数931回(一人平均1.3回)昨年同時期の56%で遅刻指導(特別指導、即日指導)の見直しで効果があった。(◎)今後も引き続き遅刻指導に取り組み、さらなる減少をめざす。 イ・全校生徒対象の交通安全講習会(3回)、免許取得許可者向け交通安全指導等を実施。「生活指導」に関する肯定的意見51%(○)自転車事故件数24件(△)次年度も自転車の交通事故件数のさらなる減少をめざす。 (2)ウ・生徒会執行部を中心に実行委員会、部活動部員たちが中心となって行事の企画、準備、運営に関わったことで生徒の満足度が76%になった。生徒会新聞(6号)を発行するなど、活動のアピールをできたことも大きい成果となった。(◎) ・PTAとともに春と秋の朝のあいさつ運動、環境美化活動(8月)計3回実施。(○) エ・新入生の部活動加入率64%(最終53%)(◎)今後も加入率50%以上を維持できるよう、体験入部や生徒会主催の部活動発表会などをさらに充実させていく。スポーツライミング部の全国大会出場やダンス部の堺市美原区成人式典後のアトラクション出演など、活動の顕著な部活動をホームページ等で校外に発信していく必要がある。 ・美高杯5種目にのべ45校976名参加。(◎)今後も美原体育館との連携を深めながら地域連携事業の充実をめざす。 オ・学校協議会委員の提言を受け、HPにカウンターを設置し、更新に努めた。保護者向けメール配信1月末で65件。保護者の学校教育自己診断における肯定的意見49%(◎)広報活動の更なる充実、保護者への情報提供のため、HPの更新や保護者向けメール配信の回数を増やすことが必要である。 ・校外での学校説明会、見学会等の参加891名(△)近隣の中学校訪問4回実施。大阪市内や堺市東区、北区、中区等への広報活動も行い、受験生獲得に努めた。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断の「学校はさまざまな取り組みを積極的に行っている」の肯定度は79%だが、体育専門コース選択生の満足度は3年生96%、2年生93%と良好である。(○)今後も一層充実を図るとともに、学校見学会・説明会や中学校への出前授業等で本校の特色としてアピールして行くことが必要である。</p>
-------------------------------	--	--	---